

福岡県人権研究所は2024年9月28日で、
前身の福岡部落史研究会創立から50周年を迎えます。

I <報告>

(1) 啓発部会（鍋山）

2月23日（金・祝）（於田川市民会館）

テーマ「大学の授業で感じた学生の人権認識 ～小・中学校での人権学習はどのように届いているのか～」

今年度第9回目となる啓発部会では、芦谷浩一さんからの問題提起「大学の授業で感じた学生の人権認識 ～小・中学校での人権学習はどのように届いているのか～」をテーマに、研究討議を行いました。

筑紫女学園大学非常勤講師として学生に人権教育の講義をしている芦谷さんから、「自分自身のこだわり」「講義のテーマ：毎時間の基本的なつくり」「学生の反応」「芦谷さんの考える人権学習のポイント」について、授業で毎回歌っている歌をギターの弾き語りを交えながら、資料を基に提起していただきました。

特に、学生からの感想（毎回の感想、期末レポート）からは、小中学校での人権学習の成果や課題があきらかとなったと同時に、これからの社会を担っていく若者の人権意識や人権感覚を高めるために、学校教育・社会教育・社会啓発及び関係機関との連携・協働の重要性等が確認されました。

最後に、「『教師が何をしたか』ではなく『子どもが何を学んだか』」「出来事や事象を学ぶのではなく、そこに（そこから）何を学ぶのか」等が重要なポイントであることが参加者間で共有されました。

※次回の活動予定：未定

(2) ジェンダー部会（天本）

2月25日（日）（於福岡県人権研究所）

テーマ：「森崎和江『匪賊の笛』を読む学習会④」

「肉体のことば」について読み、考え合いました。（担当からの報告、意見交流より）
・「思弁の世界はなぜ肉体を切り捨てがちなのだろう。私のように家事という肉体的事象を軸にした具象のかずかずにひたすることで思弁の拡がりを感じ取った者には、それは異様で、何かそこに本質的な欠陥がひそんでいるように思ってしまう。」のところで、「思弁の世界」（政界、経済界、学術・文化界）はほぼ男性が独占してきたことをふまえると、確かに「それは異様で、何かそこに本質的な欠陥がひそんでいるよう」と私も感じる。そしてその「本質的欠陥」とは何かというと「肉体を切り捨てがち」なところだと森崎さんは指摘している。（ジェンダーによる）「肉体的身体的経験の差なのかもしれない」とも。

・「肉体…の出現である生誕・出産、または肉体の死滅である生物的死に直接的に関与する者たちなどは、…それを抽象化して関与する者よりも低くいやく見られ…」のところからは、八世紀にはすでに、「肉体は低次なもの、精神（思弁）は高次なもの」という見方があったことがわかり、それが肉体の切り捨てや差別（職業差別、部落差別、女性差別…）にもつながっていることがわかった。

・だが肉体とは、切り捨ててよい低次なもの、切り捨てられるものなのだろうか、否、と森崎さんはことばを重ねている。「自己の意識で統御し得ない側面を孕む肉体を、すべての人は存在の条件としている」「女に限らず…肉体は性別のある肉体以外ではない」「肉体の条件は人間性を守るために不可欠なものだ」「さもない限り私たちの肉体は（そして存在は）物質生産の原理に従って再生産される」

・ほぼ男性独占の思弁の世界で切り捨てられがちだった「肉体」「肉体に直接関わる事象」（妊娠・出産、育児、介護、家事、ケア労働…）を意識界の対象とし、男性もそれらの経験を重ねることが、「人間性を守る」一人権を守ることにつながるのではないかと思った。

・「肉体とことば（精神）」という二分法ではなく、「肉体のことば」という見方がすごい。その発想はどこから来たのか。

・今AIの出現により肉体的経験を通さないことの恐怖が語られもするが、この時代から森崎さんが人間にとっての「肉体」について思索していたことがすごい。

※次回の活動予定：

4月14日（日）14時～（研究所）

森崎和江『匪賊の笛』を読む学習会⑤

「肉体のことば」をもう一度を読み、考え合います。

(3) 人権教育内容創造研究会（石瀧塾）（塚本）

2月27日（火）（於須恵町アザレアホール須恵）

テーマ「芸能と差別—文化を生み育てた人々—と人権学習と社会科学習の十字路口」

2023年度第8回人権教育内容創造研究会（石瀧塾）は、2月27日（火）18時30分より須恵町アザレアホール須恵で定例会をしました。内容は、①上杉聰（外川正明）解説・シリーズ映像で見る人権の歴史第9巻「芸能と差別—文化を生み育てた人々—」（DVD）を学習しました。室町時代に生まれた「今日につながる文化」及び江戸時代に盛んになった「町人の文化」に関わる内容でした。②人権学習と社会科学習の十字路口＜歴史学習の手引き【福岡県版】＞（略称：副読本）の検討会でした。教科書の歴史分野（小・中）を12のテーマを設け、1. テーマの視点、2. 押さえておきたい内容・事柄、3. 福岡県との関連・資料、4. 小中学校教科書記述留意点と授業のポイントを誤字・脱字を含めて検討しました。今回は、装丁を含めた全体像の検討もしました。2024年度から、現役の先生方に使ってもらえるように、今後取り組んでいく予定です。

※次回の活動予定：次回は、4月23日（火）（2024年度最初です）18:30開会 須恵町アザレアホール須恵学習室で行います。内容は、副読本の読み込み（見本本で検討します）などです。平日の夜ですが、参加をお待ちしています。

Ⅱ＜お知らせ＞

(1) 部落問題部会 第5回 研修会

今回の研修会内容は、野間宏の代表作の一つ「青年の環」の紹介と、今年度から新たに行ってい

る「井元麟之・その人と思想」第5回として、大学の授業の中で井元麟之のことをどう教えているかを中心に、具体的な授業内容を報告します。

多くの方のご参加をお待ちしています。学び合いませんか、教育・啓発の理論と実践について !!

日時：3月2日（土）13:00 受付 13:30 開会

会場：福岡市教職員組合東部事務所
（福岡県福岡市東区馬出4丁目2-17）

当日の問い合わせ先：090-7162-5622

内容：

1. 『青年の環』（野間宏）紹介

報告者：黒木香代子さん

『青年の環』：作者 野間宏 全5巻 6部 原稿用紙8000枚、登場人物100人以上の小説。
1947年～1970年にかけて執筆。谷崎潤一郎賞、ロータス賞を受賞。

「部落の中には解放があった。…いや、長い年月人々から差別され賤しめられた部落の人々には解放に対する限りない欲求があった。そこには日本の如何なるところにも見出すことのできない『人間』に対する愛があった。」（本文より）

「被差別部落の問題、戦争の問題、個と全体の問題、家の問題、性の問題、生と死の問題、政治の問題、精神病の問題、愛の問題、宗教の問題など書かなければならない問題が多く残っている」（「全体小説」についての野間宏の言葉より）

2. 「井元麟之・その人と思想」 第5回 ～大学での授業内容から～

報告者：貞永靖さん

大学で行われている「人権・同和問題」の授業内容から、人権について、部落差別についてどう教えているのかを紹介します。併せて授業の中で井元麟之のことをどう位置付けているか報告します。

問い合わせ：福岡県人権研究所

TEL (092) 645-0388 FAX (092) 645-0387

(2) 教育部会

日時：4月13日（土）10:00～12:00

場所：福岡県人権研究所

テーマ：「2024年度教育部会活動計画について」

(3) ジェンダー部会

日時：4月14日（日）14:00～

場所：福岡県人権研究所

テーマ：「森崎和江『匪賊の笛』を読む学習会⑤」

「肉体のことば」をもう一度を読み、考え合います。

(4) 人権教育内容創造研究会（石瀧塾）

日時：4月23日（火）18:30～

場所：須恵町アザレアホール須恵学習室

テーマ：副読本の読み込み（見本本で検討します）など

(5) 部落史部会／史・資料プロジェクト

日時：5月11日（土）14:00～

場所：ししぶ交流センター

内容：未定

(6) 2023年9月25日（月）21時～テレビ朝日 ABEMA Prime（ネットテレビ）に川口泰司さんがご出演され、川口さんの新刊『「寝た子」はネットで起こされる！？』（福岡県人権研究所）が紹介されました。以前、『リベラシオン』144・186号に東日本大震災被災地支援についてご執筆された片岡遼平さんもお出演されています。以下のサイトでご視聴いただけます。

https://www.youtube.com/watch?v=o0opx_QdRe4

『「寝た子」はネットで起こされる！？』お求めはこちら↓

<https://books-f-jinken.raku-uru.jp/item-detail/1428113>

(7) 『全九州水平社創立100周年記念誌』発売中！

お求めはこちら↓

<https://books-f-jinken.raku-uru.jp/item-detail/1513454>

Ⅲ＜他団体主催のイベント情報＞

(1) トークセッション「ジェンダー／セクシュアリティ／多様性」

日時：3月9日（土）13:30～15:30

場所：クローバープラザ 1階 クローバーホール

（春日市原町3-1-7）

登壇者：

赤枝香奈子さん（追手門学院大学教授）

平峰麻由さん（西日本新聞社 社会部記者）

黒部美咲さん（（一社）gid.jp 日本性同一性障害と共に生きる人々の会九州支部 支部長）

主催：福岡県人権啓発情報センター×筑紫女学園大学（包括連携協定事業）

※お申込みはこちら↓

<https://www.fukuokaken-jinken.or.jp/news/detail/189>

(2) 第32回三・一文化祭 多文化交流マダン（広場）～出会い・交流・共生～

日時：3月24日（日）10:30～開場 11:00～15:30

場所：福岡市立香椎浜小学校 体育館

（福岡市東区香椎浜2丁目2-2）

主催：三・一文化祭実行委員会

<https://www.fb.me/sillakangsoofesta191931/>

※以下の研究所サイト（イベント・部会等）はGoogle、Edgeでは表示に不具合が生じるため、Firefoxというブラウザでご覧下さい。

Firefoxのダウンロードは以下のサイトからお願いします。↓

<https://www.mozilla.org/ja/firefox/windows/>

・ イベント

<http://www.f-jinken.com/event.html>

・ 部落史部会

5月11日（土）「内容未定」

<http://www.f-jinken.com/activity/burakshi.html>

・ 教育部会

4月13日（土）「2024年度教育部会活動計画について」

<http://www.f-jinken.com/activity/kyoiku.html>

・ ジェンダー部会

4月14日（日）「森崎和江『匪賊の笛』を読む学習会⑤」

<http://www.f-jinken.com/activity/gender.html>

・ 外国人部会

<http://www.f-jinken.com/activity/gaikokujin.html>

・ 啓発部会

<http://www.f-jinken.com/activity/keihatsu.html>

・ 海外人権スタディツアー企画部会

<http://www.f-jinken.com/activity/kaigaistudy.html>

・ 部落問題部会

3月2日（土）「1. 『青年の環』（野間宏）紹介」（報告：黒木香代子さん）、「2. 「井元麟之・その人と思想」第5回～大学での授業内容から～」（報告：貞永靖さん）

<http://www.f-jinken.com/activity/burakumondai.html>

・ 特別プロジェクト「松本治一郎・井元麟之」研究会

<http://www.f-jinken.com/activity/project1.html>

〔人権研究所 書籍販売〕

新刊『「寝た子」はネットで起こされる！？—ネット人権侵害と部落差別—』（川口泰司著）

新刊・既刊のお求めはこちらから↓

<https://books-f-jinken.raku-uru.jp/>

当研究所 HP、コラム「羅針盤 PART II」

<http://www.f-jinken.com/index.html>

研究所フェイスブック

<https://www.facebook.com/fukuokajinken/>

☆ニュースのバックナンバーは下記研究所公式サイトでご覧いただけます。

<http://www.f-jinken.com/newsliberacion.html>

◇みなさんの投稿お待ちしております。

info@f-jinken.com （登録解除はこちらから）

【公益社団法人福岡県人権研究所は、会員の会費で運営されています。】